

1

チョウたちは地面にとまっていることもあります。よそ見をしているとチョウを踏んでしまうこともありますので、足元にお気をつけください！！

2

園内の歩道は平らではありません。ところどころに小さな段差がありますのでご注意ください。

3

チョウたちは約30分ごとに食事をとります。チョウの食事はもちろん花の蜜で、園内では人工の蜜を与えています。じつは花は夜間にしか蜜を出しません。自然の蜜を与えるためには園内に3万6千本の花(!)が、常に咲いていなければ1500羽以上いるチョウ達の食欲を満たすことはできません。

4

チョウたちは花卉の色で花を見分けます。もし皆さんの上にチョウがとまったら、きっとチョウにとってはあなたが花に見えたのでしょう。注意深く見てみると、食事台に置いてある白い容器は花を模した色をしています。容器の中身は水、糖分、ビタミン、ミネラルを特別に調合された当園特製の人工蜜が満たされています。

5

園内で生まれた幼虫たちの飼育研究所はこちらです。

6

チョウたちの保育エリア - ここでは撮影は自由ですが、フラッシュは使わないでください。チョウたちは羽化してもすぐに展示エリアに放されるわけではありません。羽が完全に開いて、自由に飛べるようになるまでしばらくこのエリアにとどまります。実はメスのチョウはその生涯で1度しか交尾を行いません。羽化したばかりの新入りのメスは展示エリアのオスたちから熱烈なアプローチを受けます。そのため自由に飛べるようになってから放さないと、相手を選ぶチャンスもなくなってしまいます。今日の新しいチョウたちのデビュー予定時刻は11:45amを予定しています。

7

チョウの幼虫はどれも口から糸を吐き繭を作りますが、特に蚕(カイコ)は特別な種類です。彼らは途切れのない細い糸をなんと600~900mの長さで作ります。4~8本のこの糸を縫い合わせたものが絹糸(シルク)です。

8

壁にある黒いボタンを押してください！！この研究所で毎日早朝に聞こえる音ですが何の音かわかりますか？じつはこれ、4000匹以上の幼虫たちが葉を食べる音なのです！！

9

チョウたちが産んだ卵は毎日5回採集され、特殊な薬品で洗浄されます。採集後に日付を入れたペトリ皿に移され、このペトリ皿も毎日きれいに掃除されます。新鮮な殺菌済みの葉も毎日取り替えられます。この葉を食べて幼虫たちはすくすく育ち、成長に合わせてさらに大きな容器へと移されます。通常卵からは4-10日で孵化しますが、ペトリ皿の日付をごらんいただければ卵が採集された日がわかりますのでご参照ください。

10

ケアンズバードウィングとオーチャードバタフライの保育エリア、展示エリアへはこちらからどうぞ。

11

木の葉には幼虫たちを傷つけるさまざまなウイルスや汚染物質がついているため、ここ消毒エリアではえさとして与えられる葉の消毒を行っています。驚くべきことに自然の中では100匹の幼虫からわずか1~2匹しか成虫(チョウ)にまで育たないのです。自然の中でわずか1~2%である成虫までの生存率に対して、当オーストラリアン・バタフライ・サンクチュアリーでは80~90%の確率を誇ります。

12

ぜひチョウの標本が入った箱を動かしてみてください。顕微鏡でチョウの各部位を拡大してみることができます。チョウの羽が細かいうるこの様なもので覆われていることが見えるでしょう。また滑りやすいところにもとまれるように足には小さなカギ爪がついています。チョウの目は複眼となっているため、ほぼ360度の視界を保つことができます。

13

オーチャードバタフライ(メスアカモンキアゲハ)のデビューエリアでは、羽が乾くのチョウたちが待っています。羽が乾くまでには約4時間かかり、自由に飛びまわれるようになってから展示エリアに放されます。メスのチョウは生涯に一度しか交尾をしませんのでチョウとはいえ、やはり理想のオスを見つけられるようにしてあげなくてはなりません。気に入らないオスからアプローチされても逃げられるように完全に羽が乾くのを待つのです。

14

お静かに!!!ケアンズバードウィング(ミドリメガネトリバネアゲハ)とオーチャードバタフライ(メスアカモンキアゲハ)が蛹から羽化しようとしています。写真を撮る際にはフラッシュを使わないようにお願いします。

15

ほとんどの蝶は他の昆虫や蜂のように木や花の蜜を吸って生きています。蝶には口はなく、プロボシスと呼ばれる長い舌のような器官から蜜を吸います。この器官は蜜を吸わないときにはクルクルときれいに丸まっているのがご覧いただけるはずですよ。

16

ケアンズバードウィング(ミドリメガネトリバネアゲハ)のメスは、通常羽化してから8~14時間で交尾をしますが、このイチジクの木が人気スポットのようです。上を向いているのがメス、下向きにぶら下がっているような体勢のチョウがオスです。

17

チョウは特定の気に入った木にしか卵を産みません。たとえばこのウマノズクサのつるはケアンズバードウィング(ミドリメガネトリバネアゲハ)の好物です。メスのバードウィングはこの葉の裏にそっと卵を産みます。卵から孵った幼虫はそのつるを食べ始めます。じつはウマノズクサ科の植物には毒があります。そのためこのつるを食べる幼虫にも毒があり、鳥などに食べられない防衛手段となっています。幼虫や成虫であるチョウも毒々しい色をしています。これは外敵に対して「毒入り、食べられません」という注意信号でもあるのです。

18

チョウの寿命はどのくらい??

同じ種類でも産まれた時期によって大きく変わりますが一般的には・・・

ユリシス (オオルリアゲハ) 10～15日

ケアンズバードウィング (ミドリメガネトリバネアゲハ) 4～6週間

モナークバタフライ (オオカバマダラ) 1年以内

コモン・エッグフライ (リュウキュウムラサキ) 2～3週間

オーストラリアン・ラーチャー (キオビコノハ) 最長9ヶ月



19

「ハーキュリー・モス (ヘラクレス・サン)」

ケアンズ周辺にはチョウだけでなく、世界最大の蛾も生息しています。その名も「ハーキュリー・モス」といいます。このおとなしい、世界最大の蛾には口がないので成虫は一切食事をしません。繭から孵ったあとはわずか数日しか生きられず、その間は幼虫時代に蓄えた体内の脂肪をエネルギーとしています。ギネスブックにあるこれまでの最大記録はケアンズ南の郊外、イニスフェイルで捕らえられたメスで、翼を広げた状態の最大幅はなんと36cm!

「エンペラー・ガム・モス (ヤマユガの一種)」

オーストラリア人なら誰でも知っている代表的な蛾です。オーストラリア全域に生息し、幼虫はユーカリの葉を食べます。驚くべきことにこの蛾は繭を作ってから最長2年間も繭の中に閉じこもっていることができます。これは気象条件の厳しいオーストラリアで、自分に適した気候になるのを待っているためです。

「ボゴン・モス (ヤガの一種)」

この蛾は年に一度大量に集団発生することで有名です。1998年には新築の国会議事堂において大量発生したために、照明と換気口を作り直さなければならなかったほどの大損害を与えました。

「ゾディアック・モス (オジロリツバメガ)」

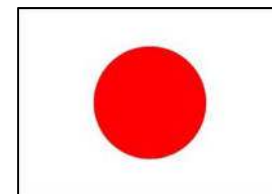
蛾の仲間では例外的に昼間活動する種類で、色に対する識別能力もチョウと同じです。この蛾もケアンズ周辺に生息し、チョウと間違えられることが多い蛾です。さらにチョウ同様に口吻を持ち花の蜜を吸います。6～7月にはアサートン高原を越えて多くの個体が飛翔してきます。その他のチョウに関するトリビア

チョウと蛾の違いは?

- チョウは通常昼間活動し、蛾は夜間に活動します。
- チョウは羽を立ててとまりますが、蛾は羽を開いてとまります。
- チョウの触覚の先端はゴルフクラブのように丸くなっていますが、蛾の触覚はシダの葉のような形、もしくは鋭角にとがっています。
- 通常チョウの胴体は羽と比較して細くなっていますが、蛾の胴体はそれに比べて太くなっています。

当園について

オーストラリアン・バタフライ・サンクチュアリーは民間経営であり、政府からの援助で運営される施設ではありません。また当然のことですが十分に環境に配慮した運営を行っています。皆様からのフィードバックを当園の改善に活かしますのでお客様からのコメント、ご指摘はいつでも大歓迎です。ぜひお気軽にご意見をお寄せください。また皆様からの写真も歓迎しております。当園のフェイスブック上で公開いたしますのでぜひEメールにてお送りください。



日本語/ JAPANESE

ようこそオーストラリアン・バタフライ・サンクチュアリーへ!!

チョウの生態には不思議がいっぱい! 皆様の知らない世界をご案内するために園内にはたくさんの方案内板が出ています。それぞれの案内板には数字がついていますので、この冊子内の同じ番号のご案内を日本語訳としてご参照ください。

当園は1987年にオープンし、美しいチョウに囲まれるおとぎの国のような体験をキュランダを訪れるお客様に提供してきました。園内には常時1,500～2,000羽のチョウが自由に飛んでいます。輝く青い色がひととき目立つユリシス(オオルリアゲハ)をはじめ、黄色、緑、赤色が美しいコンビネーションを見せるオーストラリア最大のチョウであるケアンズバードウィング(ミドリメガネトリバネアゲハ)などケアンズ周辺に住むチョウたちを熱帯雨林を模した園内でお楽しみください。

園内のすべてのチョウは展示エリアを飛び回るチョウたちが産んだ卵から、一貫して人の手によって育てられているためとてもフレンドリーで人間を怖がりません。明るい色のシャツや帽子をつけている人のところには花と間違えたチョウがとまりにくるかもしれないので、驚かないでくださいね!

8 Rob Veivers Drive, Kuranda, Queensland

Ph: 61 (0) 7 4093 7575

Fx: 61 (0) 7 4093 8923

Email: ulysses@australianbutterflies.com

Website: www.australianbutterflies.com

撮影した写真の投稿もお待ちしています!! www.facebook.com/KurandaButterflies

